

第 16 期新潟教区教化センター研修内容詳細

研修内容 I 定例学習会

※各学習会では大谷派教師資格取得者程度を対象とした内容を学習します。

① 講師：齊藤 研 氏（第 15 組 正樂寺）

課題：親鸞聖人のお手紙を読む

親鸞聖人のしたためられた手紙の数々は、御消息類として今に伝持されているが、それ等は「私信」という個人のみが対象の伝達記録類ではありません。

これらの消息類を丁寧に読み進めることによって、僧伽の交わりにおいて親鸞聖人が何を大切にされたのかを窺うことが出来ると考えられます。

今期は親鸞聖人の御消息類を読み進めることによって、御同朋、御同行ということを考える時、外すことの出来ないものは何か、それを確かめていきます。

2024 年度 3 回予定（①2026 年 11/19、②2027/3/11、③5/20）

② 講師：富樫 大樹 氏（第 17 組 妙音寺）

課題：『歎異抄』

『歎異抄』には、親鸞聖人の言葉が記されていますが、それは単なる文字の記録ではなく、弟子の身体に沁み入った聖人の「声」であります。そこにある響きを尋ねながら、親鸞聖人の身を置かれた「念仏の僧伽」に学んでいきたいと思えます。

2026 年度 3 回予定（①2026 年 12/24、②2027/3/18、③6/3）

③ 講師：中山 善雄 氏（第 23 組 浄敬寺）

課題：世親『摂大乘論釈』所知相分講読

世親の『浄土論』は、私たちの生きる国土の問題と密接に関わって記されています。特に、今日で言うところの社会秩序、分断、抑圧といった問題が、我執・法執という仏教の根本問題を見すえて取り上げられ、それに対する利他教化が課題となっています。その『浄土論』の背景には、『摂大乘論釈』があり、所知相分では我執・法執や世間の言説に基づく虚構の実体化が描かれています。そして、仏陀の無分別智により、その実体化が解かれ、穢土が清浄化される道理が記されています。本講義では、国土（浄土）、利他教化、仏陀の智慧という観点から『摂大乘論釈』を読み、浄土教の基本を確認します。

2026 年度 2 回予定（①2026 年 12/17、②2027 年 4/22）

④ 講師：田澤 一明 氏（第 19 組 明誓寺）

課題：無量寿経

親鸞聖人は、「真実の教」として『大無量寿経』を選びとり、その核心が「如来の本願」を説くことであり、その具体性が「仏の名号」にあると示しています。しかし我われ一人ひとりにおいて、その本願念仏を内実とする『大無量寿経』が、どこで真実の教えであると確認できるでしょうか。そのことを念頭に、教えの呼びかけと現実の問いかけの間に身を置いて、『大無量寿経』に聞いていきます。

2026 年度 2 回予定（①2027 年 2/25、②2027 年 5/6）

⑤ 講師：三明 智彰 氏（九州大谷短期大学名誉学長、量深学場主宰）

課題：「真実教の開頭」

祖師親鸞聖人立教開宗の根本精神を、真蹟の坂東本『教行信証』に直参して素読しつつ学ぶ。昨年度の「総序」に引き続き、「教巻」に触れてゆく。

毎回のテーマ：第1回 題号と構成、伝承己証、

第2回 二回向四法と真仮の仏土

第3回 真実教大意

第4回 経証①大経

第5回 経証②異訳

第6回 釈文・結釈

2026年度3回予定（①2026年11/26、②2027年4/15、③6/10）

II フィールドワーク

学びを教室内に留めるのではなく、様々な「現場」に赴き現地学習を行うことで社会との関わり合いの中から我が身を見つめ直し、真宗教学をより一層深めていく機縁とする。2026年度は新潟教区内（上越地方）のご旧跡に足を運び教区内の真宗史の学習並びに研修生同士の交流をはかる（日帰り研修）

以 上